

不登校対応加配教員による不登校未然防止について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生の 1 学期から徐々に欠席が増え不登校となった。不登校の要因としては、生徒との関係づくりに悩み、孤立感や疎外感を感じたことから、集団に不安感を抱くようになった。本人の特性や、学習面での滞りも起因していると思われる。また、学校に行かない期間が長引くと SNS に没頭し、就寝時刻が遅くなることもある。学習やコミュニケーションで特別な支援が必要である。

具体的な取組

○組織力の向上①

年 6 回アンケートを実施し、「居場所づくり」「絆づくり」を意識した教育活動の充実を図った。生活意識調査による実態把握から、生徒と教員間の意識差がないか検証し、授業や学習環境を改善した。

生活意識調査結果 (令和 6 年度 1 学期)

	進んでく はまる	進 んで は ま ら な い	進 んで ま ま ら な い	進 んで ま ま ら な い
中上層 (生徒) 下層 (教員)				
① 学校が楽しい	58.30%	34.80%	4.80%	1.90%
(42.80%) (28.62%) (14.97%) (7.28%)				
② みんなで何かをするのは楽しい (クラスや学年等)	75.60%	24.30%	3.80%	1.30%
(62.68%) (33.17%) (13.82%) (8.17%)				
③ 授業に主体的に取り組んでいる (積極的)	44.70%	42.70%	11.80%	0.80%
(31.83%) (37.84%) (28.84%) (18.3%)				
④ 授業がよく分かる	42.40%	46.00%	8.60%	3.00%
(34.21%) (38.03%) (18.89%) (11.67%)				

○組織力の向上②

毎週の校内支援委員会と生活指導部会で、不登校生徒の状況を確認し、不登校生徒の支援方法や別室登校が適切な手段となる場合の提案を行った。支援員が別室で対応する際の、学年教員との連携を円滑にするための調整や、支援員がサポートしやすくなるための必要な情報共有を随時行った。

○個々の不登校生徒への支援

不登校生徒に対して、登校を拒む要因を軽減するだけでなく、どのような状況であれば登校できるかを傾聴し、登校に対するステップを提案をした。

また、学級担任と連携し、不登校生徒の登校に向けた保護者との連携体制を整えた。



○校内体制の強化

不登校を未然防止するための具体的な取組や不登校につながる可能性のある様子を早期発見するための視点、生徒の細かい変化を見逃さないための視点についての研修を、全教職員を対象に、計 4 回行った。また、不登校未然防止の観点から授業改善を行い、魅力ある授業づくりを行った。

成果

当該生徒は、支援開始後、週 1 回の登校から週 4 回以上別室に登校できるようになった。生徒一人一人に対し、関係する情報を集約し全教職員で共有・連携することで一貫した対応ができた。また、未然防止の観点から授業研究を行うことで組織力が向上した。

課題

家から出ることのできない生徒への対応や、不登校状況にある要因が生徒の特性等に起因している場合、保護者の協力が不可欠であり、関係機関との連携が重要となる。